

第2回仙台救済支援報告 3月22日—23日夜中

3月22日、新生宣教団にアメリカのクリスチャン・エイド・ミニストリーのスタッフであるグレンさん、アーノルドさんの2人が来社し、宮城に行きたいが、どういう手段で行くことができるかという話がありました。バスのチケットを調べると、完売。バスは無理となり、「緊急車両許可証」がまだあることから、宣教部の孫、室岡が2人をお連れすることになりました。昼過ぎに鳩山を出発、まず東久留米の「クラッシュ・ジャパン」本部に向かい、荷物を積み、出発。目的地は仙台近郊の大衡村にある、拡大宣教学院（永井先生）にようやく夜10時過ぎに到着、宿泊させていただきました。



23日朝、永井先生にお会いしました。（横浜・みどりのキリスト教会の西村希望先生や、過去新生宣教団で働いていたアメリカ人クックさんにもお会いしました）。午後から永井先生が被災地に入る時に一緒に行けるとの話を伺ったので、午前中は仙台市泉区にある明泉学園を訪問し、被災者たちへの救済支援活動の話

を聞きました。その後、拡大宣教学院に戻り、永井先生と、横浜から到着したエブリーネーションズの2人、大型トラックと共に、私たち4人は津波被害のひどかった石巻に入りました。（写真＝石巻市の様子）



石巻市商店街

海に近い石巻市立湊小学校で地元のボランティアや他の団体のボランティア、被災者の方々と共に救援物資を運び入れました。ちょうどこの日は、「下の写真」の右手に見える体育館で炊き出しが行われていました。まだまだ校庭もゴミだらけ、泥だらけです。当初ここに千人を超える被災者が住んでいましたが、この時もまだ600人程度生活しているということでした。私たちのほかに、ピースボードさんが既に活動を行っていました。また、後から九州の障害者支援団体の車が到着し、一緒に物資を運びこみました。



炊き出しが行われている体育館

石巻市立湊小学校



物資を運びこむ様子です。「大トマト」「中トマト」「キャベツ」「キウイ」などと掛け声をかけながら、次々に新鮮な野菜が運び込まれます。オムツやトイレトペーパー、飲み物、毛布、などなど、大量です。これはエブリーネーションズの横浜グレイスバイブルチャーチのリック牧師とスタッフの方が横浜・静岡方面から運んできた物資です。ここに写って

いるのは、被災者の方々がほとんどですが、こうやって動ける方はごく一部の方です。まだ深い悲しみの中にある方々がいらっしゃるのも確かです。傷の深さははかり知ることができません。

その後、近くの赤井小学校に移動、物資を降ろしました。毛布や水は結構あるというので、お米やカップラーメンなどが提供されました。

夜6時半過ぎ、大衡村を出発。東北道の国見インターで夕食を取りましたが、大阪の消防署員や自衛隊、更にトルコの NGO 団体の方々も夕食を取っていました。写真の二人が、グレンとアーノルドです。



ハイチ地震、インドネシアの津波、バングラディッシュの洪水などの災害時にも救援活動に行っていたそうです。

今後、2人は後から来るクリスチャン・エイド・ミニストリーのスタッフと共に宮城県入りし、1カ月以上、現地で救済支援活動を行う予定です。彼らの働きの上に、神様の守りと祝福がありますよう、お祈り下さい。

写真 孫、室岡 文 室岡